

4 森林資源の循環利用による林業の成長産業化

- 人工林が本格的な利用期を迎える中、豊富な森林資源を循環利用することが重要。
- このため、新たな木材需要の創出、国産材の安定供給体制の構築により、林業の成長産業化を実現。また、森林の整備・保全等を通じ、森林の多面的機能を維持・向上。
- 消費者や企業等を含む国民全体が、木材利用の意義について理解を深めることも重要。

豊富な森林資源の活用

- ✓ 森林面積は国土面積の3分の2を占め、森林蓄積は人工林を中心に毎年約1億m³増加。
- ✓ 人工林において高齢級の森林が増えており、資源として利用することが重要。

木材需要の創出と国産材の安定供給

- ✓ CLT等の新たな製品・技術の開発・普及、公共建築物の木造化、木質バイオマスのエネルギー利用促進等によって新たな木材需要を創出する必要。
- ✓ 林業では、施業集約化や路網整備等を推進し、需要者のニーズに対応した国産材の安定供給を行うことが課題。
- ✓ 林業・木材産業の活性化は、山村地域に産業と雇用を生み出す。

多面的機能の発揮

- ✓ 木材利用の拡大と林業の成長産業化は、森林を守り育てることにつながる。
- ✓ 適切な森林の整備・保全による国土保全、地球温暖化防止等へも貢献。



木材利用の意義の普及・啓発（「木づかい運動」の拡大）

- ◇ 毎年10月を『木づかい推進月間』とし、集中的に広報活動を実施
- ◇ ウッドデザイン賞（新・木づかい顕彰）の実施
- ◇ 木づかいサイクルロゴマークを通じた普及啓発活動（平成27年3月末現在、380の企業・団体が登録）
- ◇ 木材の良さを実感できる「木育」の実践活動を全国各地で展開



カスケード利用

建築材として使った後も、木材製品や燃料等に利用可能